2019年6月度理事会・総会

CODE 海外災害援助市民センター
2019年度　事業計画

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	2024年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008年	2020年度末
	3	東日本大震災救援プロジェクト	2011年	2020年度末
	4	ネパール地震救援プロジェクト	2015年	2020年度末
●2019年度終了予定プロジェクト	5	青海省地震救援プロジェクト	2010年	2019 年度内に終了予定
	6	インドネシア救援プロジェクト (ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峡火山津波)	2018年	未定

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の2500世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は550世帯(2018年5月時点)。
実施内容	ぶどう畑再生支援事業 ●2019年度の計画 2019年度も引き続き、このミールバチャコット産の有機レーズンの日本での販売を行う。規模は小さいが、この支援プロジェクトを通じて同地区を中心にぶどうの無農薬・有機栽培を浸透させていく。そして日本では、レーズンの販売を通して積極的にアフガニスタンの現状を発信し、これまでの支援者だけではなく、新規の支援者を増やしていく。 ＊主な予定 ・今年度も例年とおり80kgを目標に輸入、販売する。 ・月イチシリーズ「食と国際協力」や大学等の講義でアフガニスタンの状況を知ってもらう機会を継続的に作る。 ・有機レーズンの販売促進・・・・100g/650円、20g/150円 ＊イベント(コープこうべボランティア交流会、ワンワールドフェスタ for Youth、ユニセフの集い、荒田エコフェスタなど)での販売も継続していく。 ＊委託販売・・・ケペスでの委託販売も継続

事業の目標と終了予定時期	CODE の輸入するレーズンの総量を 1t に定める。2018 年度末時点での総輸入量 520 kg であるので、残り 480 kgを輸入するにはあと 6 年（年間目標 80 kgを輸入）が必要となる事から終了予定を2024年度末とする。ただし、2022年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

事業名	1-(2)　中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民
実施内容	●2019 年度の計画： ①　光明村老年活動センター 　老年活動センターは現在、村民委員会を中心に農家楽（農家レストラン）を運営しているが、正式な農家楽の営業許可の取得が必要なことなど軌道に乗っている状態には至っていない。 　現在、光明村の上部組織である香泉郷政府が、村周辺の観光開発を計画しており、これに伴って村民委員会と共に老年活動センターの「農家楽」の再会をフォローしていく。 具体な観光開発は、センターの農家レストランとセンター前の釣堀の運営、村の南部にある洞窟、竹林、小川、交流広場などの整備を行っている。 　CODE としてもこの動きを見ながら、日本の学生によって植樹された桜や未来基金の企画で行った日本食とのコラボ、精進料理、農家民泊などの現地住民の動きをサポートしていく。 ②　現地 NGO ネットワークや四川大学との学び合い 　CODE は、2015 年から日中 NGO ボランティア研修交流事業を通じて、現地の NGO と共に防災教育などの学び合いの場を積極的に作ってきた。現地 NGO の張国遠さん（NGO 備災センター事務局長、四川省学校安全教育・管理研究センター実行主任）は、大阪大学の渥美公秀教授らと共に防災、復興に関する研修プログラムを策定し、3 年間の連続講座で実施する。CODE も吉椿がこのプログラムの講師（4 コマ）を担う。また、現在、中国の大学の研究者と日本の大学の研究者との共同事業の企画を張さんと協議している。 　2018 年度末には四川大学での防災教育の授業に参加し、日本の学生たちが防災教育やボランティア活動を中国の学生たちに紹介し、非常に好評で毎年開催したいとのオファーをいただいていることから、この交流も継続していく。 　〇主な予定 　＊第 1 回中日安全技術研修 　　日　時：2019 年 6 月 17 日～23 日 　　場　所：四川省成都市 　　主　催：四川省学校安全教育・管理研究センター 　　共　催：大阪大学、CODE 海外災害援助市民センター、四川省心理学会、成都高新減災研究所、成都市上厚公益服務センターなど

	＊台湾集集地震 20 周年の協働企画（四川・台湾・神戸） 1999 年の台湾集集地震から 20 年を迎える今年、四川の NGO と台湾の NGO、そして日本の CODE の 3 つの NGO で何かできないかと、四川の張国遠さん（NGO 備災センター）と台湾の廖嘉展さん（新故郷文教基金会）とで現在、協議を始めている。 ＊日中 NGO・ボランティア交流事業の実施 これまでに本事業を 5 回実施した。若者が、実際に CODE の支援する被災地のフィールドを歩き、現地の人に触れ、考える事で若者に大きな経験と学びをもたらした。この事業をきっかけに神戸学院大学、関西学院大学や神戸大学の卒業生たちは、その後も CODE や未来基金のボランティアとして様々な協力をしていただいた。また、未来基金の第 1 号事業のフィリピンフィールド研修の申請者である神戸大学の学生もこの事業を機に CODE にかかわるようになった。 今年度もこの事業を実施し、日本の若者の四川の被災地での学びと CODE や未来基金にかかわる若者のきっかけづくりとする。そして日中の NGO で防災教育の学び合いを進めていく。現在、この事業に参加した学生たちの高校、大学で報告会を開催する企画を考えている。 〇主な予定： 6/17～23 第 1 回中日安全技術研修 7/18 第 53 回食と国際協力「中国・四川省」 （講師：第 5 回日中 NGO・ボランティア交流事業の参加学生） ＊2－(3)と重複
	2018 年度で四川大地震から 10 年の節目を迎えたが、CODE が伝統木造建築で建設した老年活動センターを活かした「農家楽」を軌道に乗せること、そして現地の NGO と防災教育を通じた学び合いの場を本年も積極的に作っていくことを目標とする。現地 NGO との教育プログラムが 3 年計画であることから事業終了予定 2021 年とする。

事業名	1-(3) 東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	岩手県大槌、釜石などの被災者
実施内容	東日本大震災から 8 年を迎えた。今もなお約 5 万 2000 人以上の方々が仮設住宅などで避難生活を強いられている。引き続き CODE は、姉妹団体である被災地 NGO 協働センターの動きをサポートしつつ、提案があれば共に取り組む。2012 年 CODE10 周年記念シンポジウムでアフガニスタン、ハイチ、四川の被災者や NGO 関係者と東日本大震災の被災者との交流を行った事から、今後も海外の被災地と東日本大震災の被災地をつなぐ役割を模索していく。
事業の目標と終了予定時期	東北の復興状況は未だ困難な状況にあり、連携している被災地 NGO 協働センターも 10 年の支援を計画しており、CODE としても 10 年は見守る必要があることから、終了予定を

	2020 年度末とする。ただし、2020 年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

事業名	1-(4) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015 年 4 月 25 日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族、ライ族のグデル村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者　約 3500 人
実施内容	●2019 年度の計画： ＊農作物を使った収入向上プロジェクト シェルパ村落開発改善委員会は、グデル村のシャーレ地区（ワード 4、5）の住民組織で、これまでのプロジェクトのカウンターパートであったグデル・シェルパコミュニティーの下部組織である。シャーレ地区のリーダー、ニマサンゲさん、ニマさん（大工のニマさんの伯父）を中心に、現地の資源を活用した農産物および加工品を生み出すことで現地住民の収入を向上させる計画を立てている。 現地住民のほとんどは、自給のための農作物を生産しているが、加工品にすることができずに多くの作物を放置、腐敗させてしまう。そこで上記委員会は、その作物をヌードルなどにして他のバザールで販売する、そして委員会が住民から農作物を買い取り、他の地域で販売することで収入向上につなげることを考えている。すでに将来の換金作物生産に向けて、リンゴやキウィなどの果物の試作も始めている。現地からのプロポーザルでは、麦やそばを使ったヌードルを生産するための工場と食料雑貨の商店の建設が挙がっている。 以上のような現地からのプロポーザルを踏まえて、まずは綿密な現地調査（作物の状況や加工品の可能性、ネパールの協同組合など）を行い、コープさんのご協力をいただきながら協同組合の考え方の導入も検討する。また必要があれば村のリーダーたちを日本に招聘し、研修などを行う。
事業の目標と終了予定時期	辺境のグデル村で行う自然との共生、持続可能な暮らしの実現、そして村民の生活向上を図る。事業終了予定は、2020 年度末。ただし、2020 年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

●今年度終了プロジェクト

事業名	1-(5) 中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日～
実施場所	中国青海省玉樹県、称多県などの被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省称多県拉布郷の約 3000 人
実施内容	・ヤク銀行プロジェクト 2010 年の地震後、CODE は、インドネシア人アーティスト、イアニさんをカウンターパート

	に拉布郷拉司通村でヤク銀行委員会を設立し、「ヤク銀行」プロジェクトを行ってきた。2013 年度に提供された 37 頭のヤクは 2017 年末時点で 56 頭まで増えた。その後、地元政府によってこのプロジェクトが引き継がれ、200 頭のヤクを追加して 3 地区に再分配し、実施されることとなった。2018 年度、イアニさんが現地を訪問しなかったことからヤク銀行プロジェクトのその後の動向をうかがい知ることができなかった。現在イアニさんが現地のヤク銀行委員会を通じて状況を確認している。その状況が分かり次第、本事業を終了とする。
事業の目標と終了予定時期	現地のヤク銀行委員会と地元政府と今後のヤク銀行の動向を協議し、その後の運営をヤク銀行委員会に託す。よって 2019 年度をもって本事業を終了とする。

事業名	1-(6) インドネシア救援プロジェクト　　**＊新規** （ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峡火山津波）
実施日時	2018 年 7 月 29 日～
実施場所	インドネシア共和国ロンボク島・スラウェシ島・スンダ海峡（ジャワ島西部）
受益対象者の範囲及び予定人数	ロンボク島ジェングラン村リアス地区の住民約 670 名 スラウェシ島シギ県 JonoOge 村や Langaleso 村の子どもたち約 100 名 スンダ海峡（ジャワ島バンテン州）の被災地の住民とインドネシア建築家協会の専門家達
実施内容	2018 年度にインドネシアのロンボク島、スラウェシ島、スンダ海峡（ジャワ島）で立て続けに起きた地震や津波に対して、CODE は、カウンターパートであるエコ・プロワットさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）を通じて小規模ではあるがコミュニティセンター建設や木造建築のデザイン提供などの支援を行ってきた。だが、平成 30 年 7 月豪雨災害（西日本豪雨）と時期が重なった事もあり、寄付はそれほど集まっていない。現段階で、上記 3 つの救援で約 1,748,646 万円（内、コープこうべハート基金がロンボク、スラウェシに各 50 万円、計 100 万円を拠出）という現状である。 ●2019 年度の計画： **＊「ロンボク島地震」** ●CODE の動きと救援プロジェクト 北部のジェングラン村リアス地区で住民組織「パトゥ・アジェ」と連携し、エコさんを通じて木造家屋のデザインを提供することとなった。その際に木造建築の利点などを住民自身が再認識するワークショップなどを行う。 **＊「スラウェシ島地震・津波」** ●CODE の動きと救援プロジェクト Sigi 県の Langaleso 村という被災地で、子どもたちが集うコミュニティスペースを伝統木造建築「Tambi または Bantaya」で建設するプロジェクトを実施することとなった。現地からの情報では、現在、同県 Rogo 村に建設を優先していて、Langaleso 村の建設はまもなく開始するとのことである。

	＊「スンダ海峡火山・津波」 ●CODE の動きと救援プロジェクト スラウェシ島同様にエコ・プロワットさんに紹介いただいたインドネシア建築家協会の Maschyo さんらと共に 2 月に被災地であるジャワ島西部バンテン州を調査した。火山噴火に伴う津波という稀有な災害で、今後も日本で起きる可能性もなることや彼らも日本の災害復興を学びたいということから、CODE はインドネシアと日本で災害後の復興のあり方や防災・減災について専門家を交えた学び合いの場を提供していく。
事業の目標と終了予定時期	インドネシアでは災害が多発しているが、資金が十分に集まっていない。

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	事務局は、現在 2 名（村井事務局担当理事、会計の細川さんを含めると 4 名）である。2018 年度は、神港橘高校 3 年生の山内優さん（現在、関西大学 1 年生）が、タウンミーティングをきっかけに 2018 年 5 月から 2019 年 1 月まで毎週木曜日に事務所で通年型インターンとして事務局業務を担っていただいた。これをきっかけに彼女は関西大学に進学することとなった。 2019 年度は、未来基金のインターンとして立部知保里さん（兵庫県立大学大学院博士課程）が 4 月から半年間、事務局業務に従事していただく。また、日中 NGO ボランティア研修交流事業に参加した原田梨央さん（武庫川女子大学 3 年生）も週 1 回のボランティアとして若者向けの広報をになっていただいている。インターンやボランティアの力を借りながら、事務局を運営していく。また、2018 年度末より認定 NPO 法人取得に向けた動きの中で会計の正常化や業務の整理、見直しを図り、事務局の基盤を整え、会員や寄付者の拡大をはかる。

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	今年度も昨年同様に「NGO とは？」を村井、榛木両理事に講義していただく。 榛木理事には、NGO 入門編として NGO の基礎知識を、村井理事に応用編として現場での実践をお話していただく。

	＊NGO ことはじめ 2019「NGO とは何か？」 第 1 回　基礎編（2019 年 6 月 24 日）　講師：榛木恵子理事 第 2 回　実践編（2019 年 7 月 8 日）　　講師：村井雅清理事

＊2－(3) ボランティアの日　　⇒未来基金の項目に移行

事業名	2-(3) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	2014 年 3 月よりスタートした「食と国際協力」は、毎月、第 3 木曜日に開催しており、これまでに 49 回（2019 年 3 月 14 日イラン）開催してきた。 食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知ることで身近に感じてもらい、災害が発生した場合はともに協力し合うことがこの企画のねらいである。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にも気軽にご参加いただき、CODE を知ってもらう機会にすると同時に、その中から CODE に積極的に関わる若者も発掘していく。参加者のリクエストで、今年度から毎月第 3 金曜日の開催に変更した。 ＊今年度の開催スケジュール ・第 50 回 「ハイチを訪れて」（2019 年 4 月 18 日）　＊終了済み （CODE スタッフ　上野智彦） ・第 51 回 「フィリピン」（2019 年 5 月 17 日）　＊終了済み （CODE インターン　立部知保里さん） ・第 52 回 「ネパール」（2019 年 6 月 14 日） （夢広の会　廣本勝治、敏美さんご夫妻） ・第 53 回 「中国・四川省」（2019 年 7 月 18 日） （日中 NGO ボランティア研修交流事業に参加した高校生・大学生たち） ・第 54 回 「モンゴル」（2019 年 9 月 20 日） （アラタンサン・佳子さんご夫妻） ・第 55 回 「フィリピン台風災害からの取り組み」（2019 年 10 月 18 日） （フィリピンの NGO、FIDEC　JOJO さん） ・第 56 回 「インドネシア」（2019 年 11 月 15 日） （神戸大学国際協力研究科　Lini さん）

事業名	2-(4) NGO オンリーワン戦略講座
実施日時	2019 年 1 月から 9 月
実施場所	CODE 事務所

受益対象者の範囲及び予定人数	CODE スタッフ上野智彦
実施内容	JICA 東京と(社)シェアザプラネットの共催で、2019 年 1 月 21 日～9 月 3 日まで全 10 回(12 日間)の講座に上野が参加している。この講座を通じて広報やファンドレイジングの手法を学ぶことで CODE らしさ明確に発信していく。研修の成果として、CODE のリーフレットの刷新を行う。 5/14 第 5 回に参加(上野、立部) 6/3.4 第 6.7 回に参加予定(上野) 6/26.27 第 8 回に参加予定(上野) 8/1～10 第 9 回 海外研修(未定) 9/2.3 第 10 回に参加予定(上野)

＊今年度より 7-(2)CODE 未来基金を本項目に移行した。

事業名	2－(5)CODE 未来基金
実施日時	2015 年 4 月 1 日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	**●2019 年度計画(番号は添付の業務予定表と対応)** ●現状 未来基金ではこれまでにフィリピン(2016)、ネパール(2016)、中国・四川(2017)でのフィールドワーク研修と 1 件のインターンプログラム(2017)を実施してきた。フィールドワークでは実際に海外の活動現場を訪れ、CODE の救援活動や現地住民の生活状況を学んだ。またインターンシップでは実際に CODE で働く中で NGO スタッフの仕事内容や職場環境がどんなものであるか、社会の中での NGO の役割を学び、インターン生は将来 NGO で働くイメージを具体的なものにした。 一方で、未来基金はまだまだ広く認知されておらず、アピールが不足した昨年度は寄付者は微増であったが、サポーターは大きく減少している。 2019 年 4 月より半年間、立部知保里さんがインターンとして活動している。立部さんを中心に過去の未来基金プログラム参加者とともに、ボランティアの日やサポーターミーティングを通じて、未来基金をより多くの若者が集まる場としていく。 ●2019 年度の計画 1. **ボランティアの日** 過去、CODE は、多くのボランティアが集まり一緒に作業をする日として「ボランティアの日」を開催していた。今年度は未来基金として「ボランティアの日」を設置し、過去の未来基金プログラム参加者や CODE に協力する若者、サポーターが集まって未来基金に関するボランティア作業を行う。また作業中の会話から出てくる未

来基金へのアイデア提案を拾い上げ、実行することで未来基金をより良いものにしていく。

第 1 回を 5 月 15 日に開催し、未来基金への寄付増加を目的とした募金箱づくりなどに取り組んだ。未来基金リーフレットの作成や CODE Letter の作成などをボランティアの日で行うことを予定しており、その他、参加者が積極的に参加したくなるボランティアの内容を見当していく。

2. サポーターミーティングと活動報告会

サポーターが集まり、未来基金の活動内容やビジョンについて意見を交わす“サポーターミーティング”、フィールドワークやインターンシップを経験した若者自身の報告を通して未来基金の活動を紹介する“活動報告会”を今年度も開催する。9 月、3 月に開催予定。

昨年度の報告会では、過去の未来基金プログラム参加者から当時の経験が現在の自身の活動にどのように活かされているかが報告され好評を得た。報告会の参加者からは「現場に行く大切さを改めて感じた。」という声も聞かれた。今年度の報告会でも過去の参加者からの報告の場を設ける。

サポーターミーティング、報告会を通じてサポーターの定着、新たな支援者の発掘を行い、未来基金を盛り上げる足掛かりとする。

3. 阪神・淡路大震災から 25 年を迎えるにあたって

2020 年 1 月 17 日に CODE の活動の原点である阪神・淡路大震災から 25 年を迎える。震災以降大きく変化したことや 25 年が経過する現在も変わらず解決されていない課題もある。

NGO の活動を未来につなげていく未来基金こそ、震災からの学びを将来世代へと伝えていかなければいけない。震災から 25 年を迎えるこの機会に、震災当時や以降の経験、成果、課題などを見つめなおし、将来世代の NGO 活動に活かす一歩とする。

現在、月一度ペースで被災地 NGO 協働センターの主催で阪神・淡路大震災 25 年に向けてのミーティングを開催している。このミーティングに未来基金に関わる若者が参加することからスタートし、若者発信の企画を実施することをめざす。

4. 若者が多く関わる団体とのコラボ企画

CODE が連携する若者団体とともにコラボイベントを開催する。各分野で活動する NGO・学生団体と未来基金がコラボすることで、例えば「災害」や「教育」、「フェアトレード」など様々な視点から、幅広い層の若者が参加する新たな学びの場をつくっていく。

・「まなびと」とのコラボ企画

4 月に「まなびと」代表の中山迅一さんと打ち合わせを行い、両団体の活動に関わっている若者がコラボイベント企画に向けて話し合うことが決まった。また意見交換の場として後述のボランティアの日も活用していく。10 月に第 1 回を開催することを目指し、コラボ企画の内容を詰めていく。

	※「まなびと」…神戸市北野を中心に地域の学びスペースや学童保育を運営している団体。代表の中山さんは日中 NGO ボランティア研修交流や CODE 未来基金イベントにも参加している。スタッフの多くが学生ボランティア。 **5. プログラム募集** 今年度も若者を対象に CODE 未来基金プログラム申請の受付けを行う。前期募集では 4 月から 9 月までの半年間、立部知保里さんが CODE インターンとして活動する。 **〇サポーター、会費について** 今年度、サポーターや未来基金、過去の救援プロジェクトへの寄付者名簿の見直しを行い、ダイレクトメールなどを通じて未来基金への寄付を呼びかける。現在 CODE では年 3 回各約 950 名に CODE Letter を送付している。 報告会や寺子屋、食と国際協力などで募金活動を行うとともに、①のボランティアの日では参加者と話し合い、これまで CODE や未来基金の活動を認知していない人に活動を広めて寄付を呼び掛ける。 プログラム募集では各プログラムへの寄付を募り、寄付者顔の見える若者へ寄付するという流れを作る。 その他、コープこうべ、近畿ろうきんなどと未来基金の若者が出会う場を積極的に作り、コラボ事業を展開することで寄付や収益につながる努力をする。 ＊今年度の動き 4 月 1 日～9 月 30 日　立部知保里さん（兵庫県立大学大学院）のインターン 5 月 15 日　ボランティアの日　第 1 回を開催 5 月 29 日　阪神淡路大震災 25 年ミーティング（被災地 NGO 協働センター主催） 6 月 12 日　ボランティアの日　第 2 回 6 月　まなびと×CODE コラボ企画若者ミーティング 7 月～8 月　2019 年度後期 CODE 未来基金プログラム募集 9 月　2019 年度後期 CODE 未来基金選考委員会 サポーターミーティング、報告会 10 月　まなびと×CODE コラボ企画第 1 回実施 1 月～2 月　2020 年度前期 CODE 未来基金プログラム募集 3 月　2020 年度前期 CODE 未来基金選考委員会 サポーターミーティング、報告会

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002 年からの継続事業）
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて

実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb（UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト）やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。 現在、英語の翻訳ボランティアは 1 名の方にご協力いただいているが、現状としては HP の更新など追いついていない。今年度は未来基金のインターンやボランティアの若者にも翻訳ボランティアとしてかかわっていただき、HP.FB での情報発信を充実させる。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 40 名
実施内容	① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣 CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、12 年目となる本年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱの講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。受講人数は約 40 名。（全 15 コマ） 《内容》 9/24（火） 第 1 回 ガイダンス（村井理事） 10/1（火） 第 2 回 ボランティアの起源と意義（村井理事） 10/8（火） 第 3 回 平成時代に刻まれた「ボランティア元年とは？」（村井理事） 10/15（火） 第 4 回 ボランティアでもできる心のケア（村井理事） 10/22（火） 第 5 回 CODE 海外災害援助市民センターの活動について （吉椿） 10/29（火） 第 6 回 もう一つの生き方、もう一つの働き方（村井理事、上野） 11/ 5（火） 第 7 回 異文化理解と援助（吉椿） 11/ 12（火） 第 8 回 援助の届き難い被災地支援の方策（吉椿） 11/19（火） 第 9 回 災害と貧困（吉椿） 11/26（火） 第 10 回 災害とジェンダー（斉藤容子さん） 12/3（火） 第 11 回 保護とエンパワーメント（村井理事） 12/10（火） 第 12 回 災害時における地域力と備えの大切さについて（村井理事） 12/17（火） 第 13 回 農業支援を通して支援の思想を築く（村井理事） 12/24（火） 第 14 回 被災者主体と補完性の原理について（村井理事） 1/7（木） 第 15 回 課題と展望(村井理事） その他の授業 6 月 29 日（土） 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義（吉椿） 7 月 6 日（土） 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義（吉椿）

	② インターンシップ受け入れ 例年同様に 9 月中旬頃インターン学生 2～3 名を受け入れる。

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 神戸女子大学
実施日時	5 月から 7 月までの前期、毎週金曜日第 2 限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生 20 名
実施内容	4 年目となる神戸女子大学神戸国際教養学科の授業「国際ボランティア活動論」を村井理事と上野が講師をつとめる。 今年度も引き続き以下のような内容で授業を行う。（全 10 コマ） 《内容》 5/10（金） 誰一人取り残さない世界とは？～SDGs の取り組みから学ぶ～（上野） 5/17（金） ボランティアの歴史 ～「セツルメント運動」から災害救援へ～ （村井理事） 5/24（金） CODE 海外災害援助市民センターの活動について ～困った時はお互い様・一人ひとりに寄り添う～（村井理事） 5/31（金） 災害と貧困 ～貧困脱出と災害復興との関係～（村井理事） 6/7（金） 異文化理解と支援 ～宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する～（村井理事） 6/14（金） 阪神・淡路大震災の教訓から、海外の被災地への技術移転を学ぶ （村井理事） 6/21（金） 女性の生活向上支援と自立 ～教育のもたらす意義～（村井理事） 6/28（金） 長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン ～人為災害と自然災害と戦う人々～（村井理事） 7/5（金） 紛争後の支援から 13 年、アフガニスタンの今 ～平和構築への課題～（村井理事） 7/12（金） 保護とエンパワーメント（村井理事）

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 講師派遣 前年度と同様、派遣依頼があれば行う。 ＊今年度の予定 ・神戸女学院大学 文学部総合文化学科「ボランティア論Ⅰ」で講義（吉椿）

	・龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿） ② その他必要に応じて行う。

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 北陸学院大学（JICA 草の根技術協力事業） ＊1海外の災害地の救援事業のフィリピン台風救援から、本項目へ移行した。
実施日時	2016 年 4 月～2018 年 3 月
実施場所	フィリピンセブ島、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバランガイ（最少行政単位）の漁師や女性 約 1000 人
実施内容	●2019 年度の計画 2019 年 12 月が終了予定である。現在、アソシエーションのメンバーが、生活向上の一助として現在、石鹸を作っているが、石鹸の販路やその意義、石鹸つくりをきっかけに自分たちで学び、実行してきた成功体験を如何に次につなげていくか。また、現地の小学校を通して子どもたち向けの避難者カードを作成している。これを通じて地域の防災力向上をめざす。 10 月には本邦研修として現地カウンターパートの JOJO さん（FIDEC：漁村支援の NGO）やバンタヤンのアソシエーションの女性メンバー3～4 名を招へいする予定で、能登半島の漁村や神戸を訪問し、石鹸作りのブラッシュアップや女性たちのエンパワーメントなどを学んでもらう。

事業名	4-(5)《関係機関からの受託事業》 復興・被災者支援制度の国際調査事業
実施日時	2018 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日
実施場所	関西学院大学災害復興制度研究所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	関西学院大学研究推進社会連携機構・災害復興制度研究所からの委託事業「復興・被災者支援制度の国際調査事業」に今年度も引き続き、CODE から斉藤容子さんを出向させる。海外の災害復興制度を調査研究することで、日本の災害復興に寄与するもので、任期は 1 年ごとの更新で、最大 2 年間。2019 年度が最終年である。

事業名	4-(6) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定

実施内容	① 関西 NGO 協議会の活動への参加 2017 年度より CODE は団体理事として吉椿が理事会（2ヶ月に 1 度）に出席し、高校生ボランティア育成の事業を担当している。これまで提言専門委員として村井理事が名を連ねていたが、2016 年度からは十分な委員を確保できないことから休会となっている。今年度も委員会の状況を見ながら、参加の有無を判断する。 今年度も引き続き、今年度も関西地域 NGO 助成プログラム説明会、NGO スタディツアー合同説明会、関西 CS ネットワークフィーラム、セーフトラベルセミナー、ワンワールド・フェスティバル for Youth などに参加する。また、2017 年度に設立された関西 SDG`s プラットフォーム（事務局：JICA 関西、近畿経済産業局、関西広域連合）や KANSAI-SDGs市民アジェンダなど市民社会から関西 NGO 協議会として参画していく。 ＊主な予定 4 月 20～22 日　C20 に関西 NGO 協議会が参加 5 月 26 日　関西 NGO 協議会　第 18 回定期総会に出席（吉椿） 6 月 25 日　G20 大阪サミット分科会に出席（吉椿） 12 月　ワンワールドフェスタ　for YOUTH でワークショップ、ブース出展（吉椿、上野） ② コープこうべとの連携 コープこうべが実施している地区の勉強会、報告会への講師派遣を引き続き行う。 また、これまでコープこうべにご支援をいただいた四川やフィリピン、ネパール、インドネシアなどの被災地を訪問し、学び合う企画なども検討する。特に未来基金に関わった若者とコープの組合員が出会う多世代交流の場も計画する。 ＊主な予定 ・6 月 12 日　コープこうべ第 98 期通常総代会に出席（芹田代表理事） ・その他、ハート基金運営委員会への参加やコープこうべ第 3 地区福祉サークルリーダー連絡会での講演（吉椿）、平和の集いやユニセフの集いでレーズンを販売（上野）を継続する。 ③ 近畿ろうきん 2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」（預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ）の寄付先団体にご指名いただいた。これにより年間約 20 万円の寄付を得ている。寄付の額はそれほど大きくはないが、近畿ろうきんや生協、企業の労働組合での活動報告や講演など CODE を知ってもらう場を持たせてもらうことで CODE や未来基金の周知に努力してきた。2019 年度は、ろうきんの持つ各企業とのネットワークを活用し、災害の連携なども提案していく。 ＊主な予定 ・6 月 18 日　社会貢献預金「笑顔プラス」贈呈式に出席（吉椿） ・10 月 3 日　労働者福祉協議会で講演（吉椿） ④ 2020 世界災害語り継ぎフォーラム（Tell-Net）　**＊新規** 10 年ぶりに神戸で 2020 世界語り継ぎフォーラムが開催される。CODE も吉椿が実行委員になっており、分科会「語り継ぎと交流」を座長、坂戸勝さん（元国際交流基金理

	事）と協働している。1 月のフィーラムには、CODE のカウンターパートであるエコ・プラワットさん（インドネシア）やサイドゥール・ラーマンさん（バングラデシュ）、張国遠さん（NGO 備災センター）の3者を招へいする予定である。 ＊主な予定 ・2020 世界災害語り継ぎフィーラム 日　時：1 月 24 日～26 日 場　所：JICA 関西 ⑤　若者の団体とのネットワーク 災害時などに CODE と連携してきた若者の団体（ワカモノヂカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、アイセック神戸大学委員会、NPO まなびと、神戸大学学生救援隊、大学コンソーシアム、神戸ソーシャルキャンパスなど）との関係をより深め、ま未来基金を通じて若者どうしのネットワークも充実させていく。また、SDGsをキーワードにした若者のネットワーク（ジャパンユースプラットフォーム）とも協働していく。 ＊主な予定 ・G20 ユースサミット分科会で登壇（吉椿） 日　時：6 月 22 日～23 日 場　所：神戸市外国語大学 主　催：ジャパンユースプラットフォーム ・アイセック送り出し事業局　面談（吉椿） ・NPO しゃらくや神戸ソーシャルキャンパスとの情報交換やコラボ ・NPOまなびととのコラボ企画 その他、未来基金に関わるプロジェクトで、上記団体と連携していく。 ⑥　JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。 ⑦　その他 ・シンガポールの NGO、マーシーレリーフ石崎さん、ヒアリング（村井理事、吉椿）

事業名	4-(7) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	①　フィリピン台風災害（2013 年）の被災地、セブ島で活動する NGO ネットワーク、ABAG CENTRAL VISAYAS との連携を JICA 草の根技術協力事業を通じて深めていく。 ＊主な予定 ・関西大学フィリピン研修のアテンド 関西大学の永松伸吾教授のゼミ生の海外研修を CODE のフィールドであるセブのバ

	ンタヤン島で行う事になった。インターンの立部さんが兵庫県立大学大学院で研究で同島を対象地にしていることから彼女を派遣し、現地での取り組みの紹介やコーディネートをする。 日　時:2019 年 8 月 25 日～31 日(6 泊 7 日) 場　所:フィリピン・バンタヤン島 参加者:関西大学の学生約 10 名 同行者:永松伸吾(関西大学社会安全学部教授) 立部知保里さん(CODE インターン) ・JICA 草の根技術協力事業の本邦研修 北陸学院大学が受託した JICA 草の根技術協力事業の本邦研修(10 月頃)をサポートする。その際に、神戸にも訪問してもらい、報告会や食と国際協力などの場でセブのカウンターパートに報告してもらう場を持つ。　＊4ー(4)と重複 ② 2015 年から実施している「日中 NGO・ボランティア研修交流事業」をきっかけに四川の NGO 備災センター、社会的企業「壁虎漫歩」や四川尚明公益発展研究センターなどの NGO との関係を深めてきた。今後も両国の災害救援や防災教育などで連携していく。 ＊主な予定 ・第 1 回中日安全技術研修 四川の NGO の張　国遠さん(NGO 備災センター事務局長、四川省学校安全教育・管理研究センター実行主任)らが、中国と日本の専門家を講師にカリキュラムを策定し、NGO 関係者を対象に連続講座を開催する。第 1 回に吉椿が講師として参加する。3 年計画で実施する。 日　時:2019 年 6 月 17 日～23 日 場　所:四川省成都市 主　催:四川省学校安全教育・管理研究センター 共　催:CODE 海外災害援助市民センター、大阪大学、四川省心理学会、成都高新減災研究所、成都市上厚公益服務センターなど ・台湾地震 20 周年の交流事業 台湾地震 20 周年を機に、台湾、四川、日本の NGO で共同シンポジウムなどを行う。 ＊1-(2)と重複 ③ ネパール地震救援プロジェクトを通じて出会ったグデルシェルパコミュニティやシャーレ集落の住民で作る「シェルパ村落開発改善委員会」や夢広の会パタンジェなどとの連携を深め、ネパール地震の復興の一助として山間地の生活向上をめざしていく。 ＊1ー(4)と重複 ＊主な予定 2019 年 6 月 21 日　第 52 回　食と国際協力「ネパール」 (夢広の会　廣本勝治さん、敏美さんご夫妻)　*2ー(3)と重複

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	① CODE 理事による寺子屋(3 回) 昨年度に引き続き、CODE 理事 3 名(芹田代表、室崎副代表、松本理事)による寺子屋を開催する。今年度は、阪神・淡路大震災から 25 周年を機に 3 名の理事の鼎談を行い、25 年目の新たな提言として将来世代に発信していく。

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	現時点(2019 年 3 月末時点)での会員の状況: 正会員 :25(団体 3、個人 22) 賛助会員:84(団体 2、個人 82) 計:109 名・団体 (＊2015 年度は 120 名・団体、2016 年度は、147 名・団体、2017 年度は、125 名・団体) 2015 年度から 2016 年度は、ネパール地震や NHK の番組の影響で新規の会員、寄付者が一時的に大幅に増えたが、その後の会員フォローアップが十分でなかったため賛助会員が減少している。今年度は、認定 NPO 法人取得を視野に入れ、事務局業務を精査し、より丁寧な会員・寄付者管理につとめ、会員・寄付者の拡大をはかる。 ＊今年度の計画 ・リーフレットのカラー刷新 上野の広報研修を活かして、リーフレットのカラー化をはかる。 ＊2－(4)と重複 ・CODE レター発行など紙ベースの従来のものに合わせて、フェイスブックなどの SNS を積極的に活用。4 月より学生ボランティアの協力により若者向けのインスタグラムでの発信を開始した。 ・近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」 今年度より実施する近畿ろうきんの持つ企業のネットワークを活用し、CODE や未来基金の活動を広める。 ・今年度も「ソーシャルアクションリング」のバナー広告を継続する。 (年 15000 円の広告収入) ・Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みをより周知する努力を行う。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	① 当団体主催の報告会、講義の予定 四川プロジェクトの「日中 NGO ボランティア研修交流事業」に参加した若者や未来基金の若者を通じて中国四川、フィリピン、ネパールなどのプロジェクトの報告会を開催する機会を持つ。 現在、日中 NGO ボランティア研修交流事業で訪問した学生が、各高校、大学での報告会を企画中。 ＊1ー(2)と重複 ② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。 5 月 10 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(上野) ＊4-(2)と重複 5 月 17 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 5 月 24 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 5 月 31 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 6 月 4 日 龍谷大学政策学部で講義(吉椿) 6 月 7 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 6 月 14 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 6 月 17～23 日 中日安全技術研修で「NGO と復興」の講演(中国四川省成都市) ＊1ー(2)と重複 6 月 21 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 6 月 22 日～23 日 G20 ユースサミット分科会に登壇(吉椿) ＊4ー(6)と重複 6 月 23 日 金光教泉尾教会青年会で講演(上野) 6 月 28 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 6 月 29 日 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) ＊4-(1)と重複 7 月 5 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 7 月 6 日 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) ＊4-(1)と重複 7 月 12 日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) ＊4-(2)と重複 7 月 27 日 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿) 7 月 30 日 神戸大学「阪神・淡路大震災 B」で講義(吉椿) 9 月(未定) 舞子高校環境防災科で講義(吉椿) 9 月 24 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) ＊4-(1)と重複 10 月 1 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) ＊4-(1)と重複 10 月 3 日 労働者福祉協議会で講演(吉椿) ＊4-(6)と重複 10 月 8 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) ＊4-(1)と重複 10 月 15 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) ＊4-(1)と重複 10 月 22 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿) ＊4-(1)と重複 10 月 29 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事、上野)

	＊4-(1)と重複 11 月 5 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）　＊4-(1)と重複 11 月 12 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）　＊4-(1)と重複 11 月 19 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）　＊4-(1)と重複 11 月 26 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（斉藤容子）　＊4-(1)と重複 12 月 3 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 12 月 10 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 12 月 17 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 2019 年 1 月　龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿）　＊4－(3)と重複 1 月　神戸工科高校で講義（上野） 1 月 7 日　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事）　＊4-(1)と重複 1 月 25 日　世界災害語り継ぎフォーラム分科会「語り継ぎと交流」で講演 ＊4－(6)と重複

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年 3 回発行 メーリングリスト、インターネットは随時発信（積極的にツイッターの利用を行う）
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は年 3 回発行、各回約 1000 通を発送。 ・インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌：4 月、7 月（総会報告のため）、12 月（年末寄付募集のため）に発行予定。 ・メーリングリスト：逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、FACEBOOK：逐次発信 ・ホームページ：2014 年ボランティアさんの協力でリニューアルを行った。英語版もボランティアさんによって逐次、翻訳していただいている。 ・2017 年度から未来基金インターン生によって、レーズンやホストカードのネット販売が開始された。 ・今年度より学生ボランティアさんの協力でインスタグラムの発信を開始した。

【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立に向けて
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	芹田代表を中心に認定 NPO 法人取得など CODE　AID の具体化に向けて取り組む。 現在、以下のように認定NPO法人取得に向けて動いている。この動きの中で見えてきた

	会計や事務局体制の課題を今中税理士などにご協力いただきながら解決し、認定取得準備を進め、取得後は企業などに寄付を積極的に働きかけていく。 *主な動き 2/22 認定 NPO 会計を税理士（中山麻衣子さん）に相談（吉椿） 2/28 芹田代表に進捗報告（芹田代表、吉椿） 3/1 神戸市市民協働課を訪問（吉椿） 3/7 榛木理事と認定団体ヒアリングの打合せ（榛木理事、吉椿） 3/8 認定 NPO 会計に関して税理士（今中一壽さん）に相談 （村井理事、細川、吉椿） 3/12 榛木理事と認定 NPO 法人取得団体へヒアリング（榛木理事、吉椿） 3/16 今中税理士による会計ソフトのチェック（細川、吉椿） 3/27 今中税理士による会計ソフトのチェック（細川） 4/3 今中税理士と認定に関する協議（細川、吉椿） 4/8 榛木理事、村井理事と進捗状況の共有（榛木理事、村井理事、吉椿） 芹田代表と進捗状況の共有（芹田代表、吉椿） 4/11 今中税理士による 2018 年度会計のチェック（細川） 4/12 サポートセンターを訪問（今中税理士、吉椿） 5/13 サポートセンター（市民活動センター神戸）を訪問（今中税理士、吉椿） 5/15 今中税理士による 2018 年度会計の検討（細川） 5/23 今中税理士と認定取得に関して協議（吉椿） 5/29 サポートセンター（市民活動センター神戸）を訪問（今中税理士、吉椿）

事業名	7-(2) 阪神・淡路大震災から 25 年の企画
実施日時	2020 年 1 月 17 日
実施場所	神戸
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2020 年 1 月 17 日で阪神・淡路大震災から 25 年を迎える。その間国内外で多くの災害を経験してきたが、その経験や教訓が必ずしも次の被災地で活かされている訳ではない。これまでの国内外の災害後の救援や復興における諸々の課題を今一度見つめ直し、何を、どのように将来世代に伝えていかなければならないのかを考える必要がある。 被災地 NGO 協働センターは、すでに 25 年に向けた企画のためのミーティングを開催していることから、協働センターや未来基金とのコラボ企画で実施する。 具体的には、未来基金の若者などを対象に芹田代表理事の講義を行う。また。CODE 寺子屋の特別編として、芹田、室崎、松本の 3 名の理事の鼎談を行い、そこから新たな提言を紡ぎだし、それを将来世代に伝えていく。 ＊5ー(1)と重複